

# ご利用ください身近な図書館

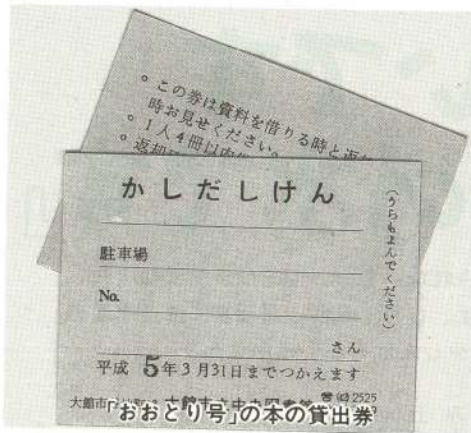
## ブックモービル『おおとり号』

小説、実用書、絵本、紙芝居など、いろいろな種類の本を満載して、移動図書館車『おおとり号』は市内各地区を巡回しています。本は心のオアシス、あなたの夢をふくらませ好奇心を満たしてくれる一冊を、おとり号が運んでます。今日はどの本にしようかな…

### 60ステーションを回っています

皆さんこんにちは。私の名前は「おとり号」。今日は私の仕事のことを知っていただきたくて登場しました。

まず自己紹介をします。私の家は中央図書館。誕生日は昭和



五十六年十月一日、もうすぐ満十一歳です。二十六人乗りのマイクロバスを本がたくさん積めるように改造してもらっています。私の中にはいつも運転手さんと図書館のおねえさん三人が乗っています。持っている本の数は二万八千冊、紙芝居が約七百巻。ふだんは二千三百冊ぐらいの本を積んで市内各地区を巡回しています。

さて、今度は仕事のことを話しますね。私の仕事は一口で言うと、中央図書館から離れている地区の人たちのもとへ本を運び、貸し出すことです。最初のころはステーション（巡回場所）が三十しかありませんでしたが、昭和六十三年度からは倍の六十ステーションを回っています。だいたい三週間おきに、同じ曜日

### いろんな声を聞きたいな

私が三年度に貸し出した本は約一万九千冊、紙芝居は千三百六十巻ほどでした。一番多かったのは子供向けの本で全体の約四割。次が小説や文学などの一般書、続いて絵本や実用書という順番でした。

私に積み込める本の数には限りがありますけれど、新しく入った本のコーナーを作ったり、

「こんな本が読みたい」という声があると早速準備したりと、私を楽しみに待っていてくれる人たちにおこたえしようがんばっています。本を借りに来てくれた時でもいいですし、図書館へ電話してくれてもいいですから、いろいろなご意見を聞かせてください。皆さんの声が聞こえると私もはりきってしまいます。

五月の巡回では、こんな声が聞きました。

「妻と二人でいつも利用してらんですよ。中央図書館からも借りてますから、読める本の数が増えていいですね。おとり号から二人で八冊でしょ、図書館からは一人三冊ずつ。合わせて十四冊も読めるんですよ。」

「おうちにも絵本はたくさんあるのよ。でも楽しい本をいっぱい読みたいから借りてくるの。」

「読みたい本がないという事はありませんね。いつも新しい本も乗せて来てくれるんですよ。でも一つだけ聞いてくれないかな。今は日が長いからいいけど、秋や冬は四時過ぎになると、暗くて外に並んだ本が選びにくくなるんです。ライトで外の本も照らしてくれると楽なんです。」

たくさん本を読むための利用



読みたい本、あったかな

方法には感心しました。ライトのことにはハッとさせられました。今、図書館長と相談中です。楽しそうに本を選んで、借りた本を大事に抱いて帰る皆さんを見るとうれしくてたまりません。でも一つだけ約束です。本は友達、大切にしてくださいね。これからは身近な図書館として、私「おとり号」をご利用ください。よろしく！

移動図書館車・おとり号についてのご意見やご要望をお気軽に寄ってください。

中央図書館

☎ 42-2525  
☎ 42-3329